

◆ News Release ◆

各 位

株式会社阪急阪神交通社ホールディングス
広 報 部

阪急阪神交通社グループ(平成20年度)決算報告

阪急阪神交通社グループ平成20年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)決算内容をご報告申し上げます。

記

	営業収益		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
平成21年3月期	65,806	(82.7)	1,487	(47.9)	1,796	(49.2)
平成20年3月期	79,541		3,103		3,649	

※阪急阪神交通社ホールディングス連結子会社25社(旅行・国際輸送事業)の合計数値

※2008年度に除外された会社:1社、2008年度に新規追加の会社:7社

(内・旅行事業)

	営業収益		営業利益		経常利益	
	百万円		百万円		百万円	
平成21年3月期	32,067		557		772	

(内・国際輸送事業)

	営業収益		営業利益		経常利益	
	百万円		百万円		百万円	
平成21年3月期	33,866		349		862	

●今後の方針

2008年4月1日より、当社は阪急阪神グループにおいて旅行・国際輸送事業を統括する中間持株会社に移行し、旅行事業を営む阪急交通社・阪神航空と、国際輸送事業を営む阪急エクスプレス・阪神エアカーゴの4事業会社が、当社傘下で事業を遂行する体制となっております。

今般、両事業それぞれの更なる競争力強化と統合効果の創出に向けて、2010年4月1日を目途に第二次再編を実施いたします。旅行事業では、現在の阪急交通社・阪神航空における主催旅行部門・団体旅行部門を阪急交通社に、また両社の業務渡航部門を阪急阪神ビジネストラベルにそれぞれ集約することとします。国際輸送事業では、現在の阪急エクスプレス・阪神エアカーゴの両社を統合し、阪急阪神エクスプレスを発足させることとします。

当社グループを取り巻く事業環境は、原油価格、為替の動向や長引く世界同時不況など、引き続き予断の許さない状況が続くものと予想されますが、このような厳しい状況下においても、当社グループの成長と企業価値の持続的な増大を図るために、阪急阪神一体となって事業展開を推進してまいります。

— < 本件に関するお問い合わせ先 > —

株式会社阪急阪神交通社ホールディングス 広報部

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-2

TEL 03-6745-7333/FAX 03-6745-7334

平成20年度取扱額
(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

〈旅行業〉

(単位:百万円)

事業会社		国内旅行	海外旅行	外国人旅行	総取扱額
阪急交通社	平成20年度	135,431	214,697	1,386	351,583
	前年度	137,636	249,780	1,493	388,909
	前年対比(%)	98.4%	86.0%	92.8%	90.4%
阪神航空	平成20年度	1,975	31,557	-	33,532
	前年度	2,084	34,740	-	36,825
	前年対比(%)	94.8%	90.8%	-	91.1%

※総取扱額にはその他を含みます。

●海外募集型企画旅行

海外旅行は、燃油サーチャージの割高感から、主軸であるヨーロッパ方面も一年を通じて苦戦し、総じて遠距離商品は不振でありました。一方、韓国を中心に近距離商品は好調に推移しました。

●国内募集型企画旅行

国内旅行は、近距離バス商品の集客は堅調に推移しましたが、航空機の減便の影響等により取扱人数は若干の減少となりました。しかしながら収益性向上努力により、営業収益は増加しました。

●業務旅行

期初は一般企業を中心に比較的好調に推移していましたが、秋以降の景気減速、円高による企業業績の急激な悪化、経費削減志向が強まり出張件数の減少などにより収益性が低下しました。

●取扱実績(募集型企画旅行)

(2008年4月～2009年3月)

部門	取扱人員	前年比
海外旅行	約65万人	約84%
国内旅行	約307万人	約96%

《今後の見通し》

「夢と感動を与えるコンテンツの創造と拡大を進め、お客様の支持をより確固たるものにする」を、基本戦略とし、その実現に向けて品質管理やリスクマネジメントの徹底によるお客様満足度の向上、トラピックス、フレンドツアーなどのブランド戦略の強化、顧客接点の強化によるCRM戦略の推進、自社ウェブサーバー投入によるインターネット販売強化、業務渡航部門での阪急阪神の協業推進による法人営業の強化などに取り組みます。

また、2010年4月を目処に株式会社阪急交通社と阪神航空株式会社を統合し、基本戦略実現のための更なる体制強化とサービス向上、シェア拡大を目指します。

平成20年度取扱額

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

〈国際輸送業〉

(単位:百万円)

事業会社		航空輸出	航空輸入	海運輸出	海運輸入	総売上額
阪急エクスプレス	平成20年度	19,113	5,055	4,725	7,308	37,590
	前年度	21,945	5,932	5,201	6,980	41,275
	前年対比(%)	87.1%	85.2%	90.8%	104.7%	91.1%
阪神エアカーゴ	平成20年度	5,095	1,668	880	1,064	8,922
	前年度	6,426	1,832	937	1,038	10,409
	前年対比(%)	79.3%	91.0%	93.9%	102.5%	85.7%

※総売上額にはロジスティクスおよびその他を含みます。

●航空輸出

航空輸出は、期初より自動車関連部品や薄型テレビ部材などを中心に好調に推移していましたが、世界的な景気後退の影響を強く受け、10月以降取扱いが急速に減少しました。

●航空輸入

航空輸入は、国内消費低迷の影響により、一般貨物、生鮮貨物共に鈍化傾向が継続し、電子部品や自動車関連、医療機器など一部に好調な荷動きが見られたものの、全般的に低調に推移しました。

●海運

海運は、上期は輸出入共に堅調に推移していましたが、輸出は、航空と同様、世界的な景気後退の影響により、冬以降急落しました。輸入は影響が限定的であった為、前年を上回る結果となりました。

●取扱実績

(2008年4月～2009年3月)

部 門	実 績	前 年 比
航空輸出(重量)	62,480トン	81.3%
航空輸入(件数)	229,518件	89.5%
海運輸出(件数)	49,276件	95.4%
海運輸入(件数)	75,096件	102.3%

《今後の見通し》

引き続き厳しい状況は続きますが、共同混載(コ・ロード)や施設共用など、阪急・阪神の更なる協業推進や、ローコストオペレーションの追及、海運・ロジスティクス事業の拡大、中国・インド・東欧など海外成長市場への展開などにより、事業の持続的成長を図ってまいります。

また、2010年4月を目処に株式会社阪急エクスプレスと阪神エアカーゴ株式会社を統合し、営業力の強化とシェアの拡大、仕入れなどのスケールメリット創生、海外拠点統合による経営資源の有効活用を目指します。